

平成15年度新入生サポート事業の実施報告について

1 目的

小学校1年生にきめ細かな学習指導を実施することにより、学習の基礎・基本を定着させ、学習への意欲と関心を高め、学校生活への円滑な適応を促進する

2 新入生サポート講師の配置基準

- ・小学校1年生で1学級平均35人以上の学校に講師を配置する
- ・配置人数は、4学級までの学校には1人、5学級以上の学校には2人
- ・毎日1クラスあたり1時間の授業を行う

3 配置校数と人数

16校に17名を配置

4 新入生サポート講師の年齢、性別及び教職経験

| 年齢 | 男性 | 女性 | 教職経験者 |
|-----|----|----|-------|
| 20代 | 1 | 1 | |
| 30代 | | 3 | 2 |
| 40代 | | 10 | 4 |
| 50代 | | 2 | 1 |
| 計 | 1 | 16 | 7 |

5 主な授業形態

担任と新入生サポート講師によるチーム・ティーチング
(担任が授業を進め、新入生サポート講師は個別に指導をする)

6 主な担当教科

算数(13校)、国語(9校)、体育(5校)、生活科(5校)、図工(2校)

7 新入生サポート講師による指導と評価

学習指導に関して

ア 理解の遅い子に

個別にゆっくりていねいに説明し、その場で理解の促進を図った

個別に指導することで理解が深まり、わかった・できたという喜びを味わうことにより、やる気につながっていった

担任1人では全員を見ることが難しい内容の授業を、新入生サポート講師がいる時間に合わせて指導していたので、とても役立っていると実感した

イ 作業の遅い子に

一緒に付き添い手助けをして見守り、できた時はほめてあげた

手のかかる子の指導を一手に引き受けることによって、担任の先生はスムーズに授業を進めることができた

ウ 話を聞けない子に

そばに行き椅子に座らせたり、前に向かせるなど、話が聞けるように何回も繰り返し指導した

話を聞くときの姿勢や態度を何回も繰り返して指導できたので、子どもたちの態度を少しずつ改善することができた

エ 学習に集中できない子に

良いところをほめ励ますことによって、やる気を引き出すよう努めた
励ましほめることで、やればできるという気持ちになり、気持ちが変わると授業にも集中できるようになる

周りの子への悪影響を少しでも抑えることができた

* この事業が学習指導にどの程度役立ったと思うか

| | |
|---------|----|
| 少し役立った | 2人 |
| 役立った | 6人 |
| とても役立った | 9人 |

学校生活への適応に関して

ア 不安そうな様子の子に

近くに行って声をかけ、子どもの話を聞いてあげるように心掛けた話を聞いてあげて安心できるように配慮したので、不安感の強い子も早く学校生活に慣れ充実した毎日を過ごせるようになった

イ 集団行動が苦手な子に

担任の指示を伝えたり今何をすべきかを話すなど、できるだけそばに付き添いその都度指導した

指導が必要な子に付き添うことで、全体のまとまりを維持することができた

ウ 粗暴な子・自己主張の強い子に

その場で話を聞き、気持ちを落ち着かせ、何が悪いことなのかを伝えたり、マナーやルールについて指導した

話をじっくりと聞いてあげて気持ちが落ち着いてくると、指導を受け入れやすくなる

子どもによっては、2人の先生に別の面を見せる場合があり、情報交換し合うことで、子どもへの理解が深められた

エ 片づけの下手な子、準備の遅い子に

実際にやって見せてあげ、片付け方・準備の仕方を何回も繰り返し指導した

何回も繰り返し指導することができたので、少しずつではあるが改善が見られた

* この事業が学校生活への適応にどの程度役立ったと思うか

| | |
|---------|----|
| 少し役立った | 1人 |
| 役立った | 8人 |
| とても役立った | 8人 |

8 児童及び保護者の声

児童の声

- ・わからないところをすぐに聞くことができて良かった

- ・一緒に勉強すると楽しい、いろいろ教えてくれる、よく話を聞いてくれる
- ・困っているとすぐ来てくれて教えてくれた
- ・頑張ると2人の先生からほめてもらえるのでうれしい
- ・いつもやさしく接してくれてうれしかった

保護者の声

- ・できないとき教えてもらったことを、帰って来てから楽しそうに話してくれて、親にとってもうれしいこと
- ・作業ができなくて困っていたら手伝ってくれた。援助をしていただきありがたく思う
- ・2人の先生がいてていねいに見てもらえる、目が行き届く、子どもの話を聞いてもらえるので安心である
- ・細かいところまでていねいな指導をしてもらい良かった
- ・子ども一人ひとりに目が届くことがよい
- ・子どもたちが学校生活に無理なく適応できた

9 成果・効果

学習指導に関して

- ・つまずきの見られる子だけではなく、一人ひとりに適切な助言や指導ができ、学習内容の定着に効果があった
- ・特に個別対応が必要な子どもに対して効果が大きい
- ・学習中、小さな一言・アドバイスで子どもはわかるようになったり、やる気が出たりする。子どもの近くに担任以外にもう一人先生がいることで言葉かけの機会が2倍になり有効である
- ・きめ細かい指導ができ大変有効である
- ・ていねいに指導することにより自信を持ち、学習意欲が高まった
- ・理解や作業の遅い子どもの援助ができるので、授業全体の流れを止めることなく学習が進められた
- ・鉛筆の持ち方、ひらがなの筆順、ノートの書き方など国語の基本的な学習が徹底できた
- ・一人ひとりへの個別指導ができ算数の学習内容の定着が図れた
- ・新入生サポート講師が援助することで、実習や校外活動等を安全に進めることができた

学校生活への適応に関して

- ・ 集団への適応に時間のかかる子どもへ繰り返し支援を行うことによって、学級集団づくりに大いに役立った
- ・ 個々への働きかけが増えたことで子どもの積極性が高まり、学校への適応に役立った
- ・ 複数の教師が子どもを観察することで、異状に早く気づいたり、つぶやきを拾い上げられたので、子どもが安心感をもてた

10 課題

- ・ 子どもへのよりよいサポートをするためには、担任との情報交換・打ち合わせ等の時間が必要であるが、現状では十分な確保が難しい
- ・ 他のサポート講師との情報交換の場を設定するなど、よりよいサポートの仕方について研修する機会が必要である
- ・ 新入生サポート講師によるクラスごとの授業は毎日1時間であり、さらにより多くの時間子どもたちと関われるように授業時間数を拡大する
- ・ 1年生1学級平均35人未満の小学校にも本事業を拡大実施する